

南一郎平を朝ドラに！

日本三大疎水の父

南一郎平

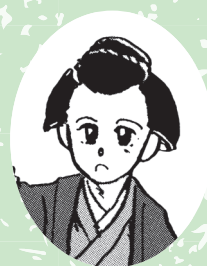
ものがたり

問合せ
総合政策課企画調整係
(☎27-8109)

第2回 一郎平と妻・志津

賀来家は、安心院町佐田の庄屋で、一郎平の妻・志津は、長女として生まれ育ちました。志津の父は、賀来^{これたけ}惟熊といい、反射炉を築き民間で初めて大砲製造に成功した宇佐の偉人の一人です（詳しくは宇佐学マンガシリーズ②をご覧ください）。志津と一郎平は、ともに実家が庄屋であったことから、人のために尽くすことをよく理解し、お互いに気持ちを通じ合えたのではないかと思います。

そのため志津は、一郎平が工費のために借用した公金の返済がでず入牢したときも、資金が底について家や土地家財の一切を売り払い、仮小屋で貧しい生活を強いられたときも、彼を信じて、広瀬井路の完成に尽力しました。また、一郎平が国に招かれ東京へ赴任するときも、全国各地の疎水事業に携わりやすいようにと、子どもたちと宇佐に残り、内助の功で彼を支え続けました。



志津

(宇佐学マンガシリーズ⑤より抜粋)

※宇佐学マンガシリーズ⑤「日本三大疎水の父 南一郎平」は市民図書館 電子分館で閲覧できます。

多文化共生ひろば

問合せ 秘書広報課 多文化共生・交流係
(☎ 27-8240)

このコーナーでは、宇佐市の外国人住民や支援者、市の取り組みなどについてご紹介します。みんなが暮らしやすい多文化共生社会を作るためにまずは知ることから始めませんか。

市の取り組み 令和4年度の主な事業計画（多文化共生・交流係）

● 多文化共生推進協議会開催

外部委員にも参画いただき事業成果や事業計画について協議しています。

● USA魅力体験ツアー

各まちづくり協議会などと協働で宇佐の魅力や文化に触れる機会を作ります。

● スポーツ交流

サッカーなどのスポーツを通して、市内在住外国人と市民の交流を図っています。

● 語学教室・文化交流活動支援事業補助金

日本語教室や文化交流活動を行う団体に対し補助金を交付しています。

他にも…

宇佐市外国人総合相談センター

市内在住・在勤の外国人やその関係者、雇用主、地域住民などの日本人が、外国人の生活に関する疑問や悩みについて相談できます。詳細は17ページ最下段。

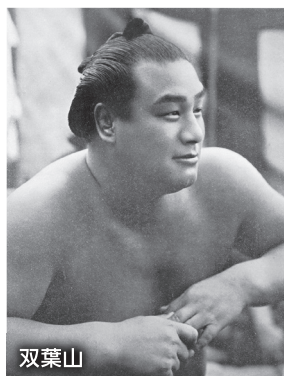
双葉山六十九連勝 その1

宇佐市長 是永修治

大相撲3月場所は新関脇の若隆景が優勝決定戦の末、元大関の平幕高安を下して初優勝しました。新関脇の優勝は双葉山以来、86年ぶりです。また、若隆景の祖父である元小結の若葉山は双葉山道場から初土俵を踏んでおり、優勝会見で若隆景は「祖父も喜んでいと思う」と述べています。

双葉山の関脇は昭和11年5月場所。当時は年2場所の11日制で、直近の1月場所、東前頭3枚目だった双葉山は、6日目に横綱玉錦に敗れたものの7日目瓊ノ浦に勝ってから5連勝、9勝2敗の好成績で新関脇に昇進したのでした。

そして、新関脇で初めて横綱玉錦に勝って全勝し、初優勝を飾るのです。父・義広は「フタバミンナカッタノオ チチウレシ ヨシヒロ」と打電。初関脇



双葉山

の全勝での初優勝に双葉山は一気に世間の注目を浴びます。しかし、瓊ノ浦への勝利が世紀の大記録69連勝のスタートになるうとは誰も想像出来ませんでした。新関脇で全勝初優勝した双葉山は大関に昇進します。翌昭和12年1月場所も11戦全勝で連続優勝すると、いったいどこまで連勝記録を伸ばすのか、相撲人氣は沸騰。次の5月場所から1場所13日に延長されますが、それでも国技館前は入場できない人であふれました。次回に続く。

平和ミュージアム（仮称）開館に向けて
kioku wo tsunagu

記憶をつなぐ

このコーナーでは「宇佐市平和ミュージアム（仮称）資料館」の開館に向け、これまで収集した資料や今に残る戦争遺構にまつわる「記憶」を紹介していきます。

48 小学国語読本 巻一

昭和8年～15年まで使用された、尋常小学校1年生用の国定国語教科書です。「ウサギとカメ」や子どもの生活体験に基づく内容も収録されていますが、軍隊を素材とした教材も見かけられ、教育が次第に軍国主義化していく様子がうかがえます。当時の義務教育は尋常小学校のみの6年間で、高等学校や大学などの高等教育へ進学する人は少数でした。



■ 戦争関連資料を収集しています。提供していただける方は社会教育課 文化財係（☎ 27-8199）にご連絡ください。資料は平和の尊さを学ぶために活用いたします。

問合せ 社会教育課 平和ミュージアム建設準備室（☎ 27-8200）